

一年間を振り返って

九州地区副会長（32 理物）西嶋進一

会報 2 3 号で理事長の言葉に「本年は充実・発展する大学であり続けることを目標に「教育」、「研究」、「貢献」を三位一体とした基盤を固め、また、進行中の 2 0 0 6 年に向けて、大学の再構築を含む周年行事を着実に推進する・・・」と発信され、本年も皆様の協力を仰ぎ大学の活性化に向け 2 0 0 4 年が更なる躍進への年であるように祈念されました。

さて、昨年が飛躍の年であったか振り返ってみます。

先ず、平成 1 6 年 1 月 2 1 日に募金推進委員の委嘱並びに記念事業・規則、寄付申込書を受理しました。

3 月 6 日は推進委員の会が野田キャンパスで募金の心得、税利等の説明がありました。併し九州地区は熊本と福岡の二名の参加でしたので当地区での説明会を再度お願いし、5 月 9 日に博多パークホテルで実施された各代表者の質疑交換を行い、目的・趣旨の理解が深まりました。

5 月 2 6 日は、同窓高校長の懇話会が研究社センターで行われ、九州から佐賀、福岡の支部長が参加、内容は募金活動・協力と副会長の改選についてで、懇談会では鹿児島島の石

畑校長が代表者挨拶をされ九州として新しい意気込みを感じました。福岡も 4 名の新任教頭が誕生しました。

次に 6 月 1 3 日に福岡サンパレスで父田の会（活洋会）が設立され大学の教育事業の振興を支援するもので心強く思いました。

6 月 2 7 日の全国支部長幹事の総会では塚本理事長が同窓会の会長に承認され、大学と理事会の一体化でさらに躍進が加速されるものと期待し、私もこの機会に二十万円の寄付をしました。

更に 1 0 月 2 2 日に山口東理大の創立十周年行事が行われた後、私の発案で関西、中国、九州の支部代表 1 0 名で学長、常務理事を囲んで募金状況の説明を受け、互いに情報の交換ができました。

1 1 月 2 3 日は当支部の総会で塚本理事長、大江常任理事から記念行事の経過説明を伺い、支部として努力目標の了承を得ました。

最後に本年は 6 月までに新体制で地区別支部長会が実施されるよう願っています。

躍進の年にあたって、皆さんの忌憚のなき意見を期待し、又、大学、理窓会、教育会の理解と協力を願って挨拶といたします。

2 0 0 5 年春分

「情報交換を」

日本の中等教育に携わっている私たちには、次代を担う青少年の育成に貢献するのが役割である。

現在、学力低下等山積する課題を改善する方策を文部科学省をはじめ関係機関・関係各位の努力が行われているが、速効策などどこにもない。

道に迷ったら出発点に戻れの例えの様に、この際、人間の本質は何なのかを問う必要があるのではなかろうか。私は、人間には、大きく二つの役割があり、その本質改善が解決策と思われる。

一つは、万物の霊長としての知性を磨き、教養を深め、人間として、現状に満足せず、常にものを求め続ける向学心であり、卑きょうなことをせず、常に正しきに付くという正義感である。

国際社会の中で、知識としての歴史を学ぶことはいうまでもないが、大切なことは、歴史を学ぶことで、人間の思考の幅を広げ、過去と現在を知ることにより、未来を洞察する力を養うことになる。

もう一つは、私たちは地球上で、自然界における動物の一種ヒトである。他の動植物との共存が必要であることは言うまでもない。

現在のように人間が暮らしやすい環境づくりを続ける限り、地球環境破壊を改善するのは、不可能であると思われる。人間はヒトであることを再認識し、その役割を果たすことにある。

去る1月27日発行の内外教

東京理科大学教育会

会長 (36 理研化) 酒井 津

育の「ひとこと」欄に「インド版スーパー・サイエンススクール」が紹介されている。その学校は幼稚園から第12学年までの一貫性の私立学校で、入学試験はなく、卒業生は工学や医学分野に進み、幼稚園は遊び中心、第1学年から5学年は教科書を一切使わず、プロジェクト方式による総合学習のみで教育課程を編成している。全学校時間が子供の自主性を尊重した総合学習に充てられているが、感激ひとしおであったのは、美術、音楽など芸術が必修になっていることである。

これこそが心の教育をふまえたサイエンススクールではないか。

会員の皆様には、互いに情報を交換し、各自が日本の理科教育の進展に寄与することができる存在となるよう本教育会に対して、今後ともご支援、ご協力をお願いする次第である。



平成十六年度 総会報告・全国支部長報告

= 青森県支部設立から現在まで... =

青森支部支部長(33理数) 澤田 静

教育会が理窓会の関連組織となり名称も教育会から理窓教育会と改められるようで、本当に喜ばしいことだと思います。

これも、理事長の塚本恒世先生はじめ教育会関係の方々の方々の努力の賜物と思います。

さて、本県の教育会が活動し始めたのは平成八年に青森県支部が東北地区の副会長を務めることになってからです。

平成九年五月には東北地区支部長会議が本県で開催され伊藤政博先生(岩手)は欠席されましたが、平塚正好先生(宮城)、月本淳先生(秋田)、今野邦昭先生(山形)、菅野祐一先生(福島)が出席され、支部・間の連携を図りました。

本県では、毎年九月に青森地区、弘前地区、八戸地区の三地区持ち回りで理窓会青森県支部総会を開催しており、当時、私は教育会と理窓会両方を担当していましたので、同時に開催してきましたが、理窓会総会に多くの時間が費やされ、教育会の協議の時間がほとんど取れませんでした。

幸いに、本県では理窓会総会の以外に毎年、三地区で理窓会地区会が開催されますので、教育会支部総会もこの時に開催しようと考えています。

今回、教育会規約で組織の行政部会、高校部会、小・中部会、私学部会の部会制が廃止されるようで、支部の組織も三地区から役員を選出したいと考えています。現在、これまで併用してきた理窓会の名簿を整理して、支部教育会会員名簿を作成中です。

今日の学校教育は多様化しており、これからの教員は専門教科の学力に強いばかりでなく、教科指導法、ボランティア活動等の特別活動、部活動の指導、教育相談がさらに重要になってくるので、支部会で管理職を経験された先生に話題を提案していただき、研修にも力を入れて、若い先生を育てていきたい。

= 岩手支部総会 = 支部長 石川明彦

平成16年11月13日(土) 10時から11時30分まで、盛岡市中央通「ホテル・エース盛岡」で開催され、当日出席者は20名弱でした。

最初の議題は、現職の鈴木勝治支部長の突然の死去に伴う支部長選出の件でした。推されて副支部長の私が務めることになりました。続いて眞岩幹事より、決算に伴う議案提出や報告があり、全て無事承認されました。

続いて恒例の研究発表話題提供に移りました。今年度の研究発表は以下の3人の先生

方をお願い致しました。

最初の研究発表は、花巻北高等学校佐藤 尚先生による「岩手県高等学校総合文化祭 総合開会式開催に向けた取り組み」でした。プリントを用意された上にプロジェクターも活用され、式典で主役を演じる生徒、縁の下で支える生徒たちそれぞれに式典意識を芽生えさせ、いかに意欲を継続させるか、苦労が伝わる紹介でした。そして、最後に式典を成功させた生徒達の感動が印象的でした。

2件目は宮古市立宮古西中学校菅 原徹先生による「牛伏七つ踊りの由 来と歴史」についてでした。まずその地域の伝統芸能をいかにして掘り起こし、どんな方々に依頼して中学生にその伝統を継がせるか、の紹介でした。なぜ牛なのか? どうして七つなのか、興味深い郷土の言い伝えを聞かせて頂きました。そして、手取り足取りタイミングよく土地の長老達から中学生に伝統芸能を教えてくれた話でした。これもプリント、パンフレット、そしてプロジェクターも用いた発表でした。

最後の研究発表は杜稜高等学校宮古分室 千葉 仁先生から「定時制・通信制課程の高校について」でした。普段耳にする機会の少ない単位制、定時制、通信制の概要を手際よく解説して頂きました。続いて、岩手県内の現状、東北の中での比較を交え、パンフレットや写真を添えて他県の訪問高校を紹介されました。

最後に今年の発表者の方々への労をねぎらい閉会としました。(44理修数)

= 宮城支部総会 = 支部長 平塚正好

平成16年度総会は6月12日(土)12時より14時30分まで仙台市ホテル白萩にて開催。本総会は平成14年度第一回の教育会単独総会開催以来第二回目の単独総会である。第1回単独総会のとき隔年おきに単独総会を開くことにした。その他は理窓会支部総会の前30分の簡単な総会を開催している。今回の出席者は来賓1名会員8名計9名で行った。出席者名は来賓佐々木勇三郎(理窓会宮城支部長、昭和34年物理卒)、会員として平塚正好(教育会宮城支部長、昭和18年数学卒)、小松学(教育会宮城副支部長、昭和20年応物卒)、狩野克範理窓会(理窓会宮城支部事務局長、昭和35年数学卒)、小畑耕一(昭和38年理物理卒)、高橋康之(昭和41年化学卒)、谷津郁朗(昭和50年応物卒)、柳井秀樹(昭和55年専攻物理卒)、佐々木克博(昭和55年理工数学卒)が出席した。第1回単独

総会の際は6名だったから2名増で安堵した。あせらず回を重ねてゆくうちに参加者が増えることを期待したい。現在会員数は高校 40、中学 20、小学 1、私学 7 計 68 名。今回の総会では教育会支部費として単独会費年 500 円を議決した。会費の用途は、総会案内通信費、名簿、総会資料印刷費に充てる。額については理窓会宮城支部会費が 500 円なのでそれよりは高く出来なかった。会計は高橋康之氏昭和 41 年化学卒元中学校長にお願いした。主なる議題としては役員選出は再選、母校 125 周年記念事業募金協力要請。その他名簿確認経過報告など行った。

今後の課題として

- (一) 教育会費納入の促進(20 名以上)
- (二) 名簿の整理
- (三) 研究活動(共通テーマを定め)の促進
- (四) 総会出席率高揚(15 名)

目標に支部の活性化に勤めることを確認し終了した。その後会費 3,000 円で懇親会を開き歓談し、一層親睦を深めた。(18 理数)

= 茨城支部総会 = 支部長 坂入 靖男

茨城支部は、平成 4 年 10 月に準備委員会が発足しました。初代支部長の小川 修先生のリーダーシップのもとに、県下の公立小・中・高と私立校並びにOBの先生方の把握から始まり、翌年の平成 5 年 2 月には第 1 回の総会を開く運びとなりました。

理窓会支部総会では、教育会の現状を報告し、原則として総会とは別な期日に開催しています。

本年度は、16 年 11 月 27 日に県西生涯学習センターにおいて実施しました。茨城県理窓会幹事 大久保 清先生のご挨拶をいただき、決算報告後、『125 周年記念事業の募金寄付』についてのご理解とご協力をお願いしました。次に県研修センター指導主事 谷田部佳見先生のご講話「ドイツ研修の報告」は、立派な資料と共にスクリーンで、ドイツと日本の教育の違いや教育環境のすばらしさを分かりやすく説明していただきました。また質疑応答も活発にでて大変有意義な話し合いができました。情報交換は、安原下妻中学校校長や小林常総学院教頭から高等学校に対しての切実な要望や意見があり、遠慮することなく同窓ならではの意見交換ができました。

昼食中でも会話が弾み、親睦を深めることが出来たようです。

小学校や中学校での学校選択制の導入・中高一貫教育の流れ・高等学校での統廃合の問題等々で、生き残りをかけ、如何に学校の特色を出すか現場で必死に努力されている様子が伝わり共に共

有することができました。

さらに、時代に対応すべく改革や課題が山積みになっている今こそ、ある企業家が言われた「7 割の賛成は改革ではない。7 割の人が反対することを実現することが真の改革である。」この言葉を噛み締めて、健康に留意してお互いに頑張りとうと共通理解を得ました。

午後からは、しもだて美術館「アルデリオ」にて著名は画家の絵画を觀賞し散会しました。(53 理数)

= 群馬支部総会 = 支部長 林 陽二

群馬支部では、平成 16 年度支部総会を昨年 12 月 4 日(土)に開催しました。理窓会支部総会、教育会支部総会と共に懇親会を兼ねて、この時期に行うのが恒例になっています。今年度も、前橋市内の会場にて、25 名の会員の参加を得て盛会のうちに行われました。

当日は、大学から常務理事の幡野純様、理窓会本部から常任幹事の山田義幸様に御出席をいただき、幡野様には、総会の中で大学の最新情報などを OHP を用いて紹介していただきました。この欄をお借りしてお礼申し上げます。

最近、こういった同窓会に限らず、各職場においても、若い人たちの連帯感が希薄になったと言われていますが、本会でも若い先生方の出席が少ないのが気になるところです。殊更に「同窓」を振りかざすつもりはないのですが、「理科大」という縁によって交歓の場をもち相互に刺激しあうことは大変意義あることかと考えています。できるだけ多くの同窓生に参加してもらい、懇親の輪がさらに広がっていくことを願っているところで。(44 理数)

= 埼玉支部総会 = 代表幹事 松本恭介

平成 16 年 12 月 4 日大宮国体記念会館にて開催しました平成 16 年度埼玉支部総会を報告いたします。

ご多忙の中、酒井教育会会長にもご出席をいただき、今年度は平成 16 年卒の若手教員の参加もあり、長澤埼玉支部会長以下 25 名の参加で大いに盛り上がりました。

内容は例年通り総会、講演会、懇親会の 3 部構成で行われました。

総会では、私立教員への会員資格拡大の内規改訂、平成 16 年度新役員案、同事業報告・平成 17 年度事業計画案が満場一致で承認され、新たな一歩が踏み出され、埼玉支部の今後が大いに期待されます。

講演会は理大OBである教育調査研究所小北斗代表取締役岩佐桂一氏による「埼玉県高校教育の現状と課題」というご講演を拝聴いたしました。

岩佐氏は埼玉県高校入試および中高連絡という分野の研究では第一人者であり、切れ味鋭い視点で本県高校教育の将来がどうあるべきかをご教示いただきました。あつという間に予定の90分が過ぎ、参会者全員講演内容に大変満足し、また我々の責任の重さを再認識させていただいたことに感謝する次第であります。

ここで、懇親会に先立ち、恒例の記念写真撮影を和気藹々で行い、参会者の友好を深める貴重な一枚になることを一同楽しみに懇親の場へ移動となりました。

懇親会は、酒井会長、岩佐氏も参加され、長澤埼玉支部会長とともにご挨拶をいただき、三友評議員の乾杯で始まりました。懇談の途中で自己紹介および近況報告を行い、参会者全員が日頃の教育活動や自身の課題やらを話題に懇親し、予定時刻を30分も超過するほど、大いに盛り上がりました。

この総会に向け、2度の幹事会で企画準備をし、無事に終了することができました。安堵の気持ちとともに、さらに平成17年度に向け、新たな企画を提案し、埼玉支部が益々盛大な会となるよう団結していこうと幹事一同反省会を終えたところであります。(59 理工修情)

= 東京支部総会 = 副支部長 廣瀬和昭

平成16年度の東京理科大学教育会東京支部定期総会は11月3日午後2時より、森戸記念館第1フォーラムで行われた。運営委員会の各部会や各委員会の役員改選年に当たるので、まず旧委員を中心に新役員を選出する作業を行った。十分な改選ができない部会や委員会もあったが、それぞれの責任で後日決定することにして、支部総会を開催した。

約五十名が出席し、會田小中部会部長の司会により、酒井澤会長は挨拶に立った。学力低下が叫ばれる今日の学校教育の中で、本大学の出身の教員は検討しているが、教員の資質向上のために大学の果たす役割をもっと充実し、さらに卒業生の教員と有機的な関係で助け合うことができる。さらに、この教育会は大学と同窓の教員とを結ぶ重要な役割を果たしているはずだと強調された挨拶をされた。次に報告や協議事項に入り、会務報告や会計報告などが行われた。また、全国組織の状況や全国総会報告、規約改定問題が本部事務局磯脇理事より報告された。

総会終了後、森戸記念館二階へ移動して、午後三時半から懇親会が行われた。和やかな中にも力強く同窓の絆を強め合い、東京理科大学、理窓会、教育会の発展を誓い、盛況のうちに終了した。

(18 理数)

= 静岡支部総会 = 支部長 恩田征弥

当支部は、平成5年に発足して以来11年を経過し、次の新たな歴史の第一歩を印したところです。

さて、16年度の支部総会は、11月27日(土)三島市にて、会員14名の参加のもとに開催。今年も、校長・教頭各1名の新規加入があり、嬉しい増員となりました。以下に概要を記します。

遠藤宏理窓会静岡支部長講話

理窓会及び教育会について過去の歴史と現況および双方の連携の在り方、理大125周年記念事業の話題など、話材多い講話をいただいた。また、会員相互の絆を一層深めるため、総会のほかに、東・中・西部ごとに地区会を開催してみたらという提案、さらに理窓会支部の理事を1名、教育会から選出してほしいとの要請がなされた。

協議

《教育会本部規約改定案について》

原案のとおりで異論なし。

また、会員拡大の観点から、当支部の検討課題となっていた会員資格については、本部規約に準ずる扱いとすることで合意した。

《理窓会理事選出案について》

当案は即結論とはいかず、内部で調整するなど、継続検討とすることとした。

《本会支部長改選について》

17年度は改選時期となるが、職務について単位不認定との声多く、及ばずながら更に1年続投することとなった。

総会後は、盃を重ねながら会員各自から近況報告と情報提供があり、和やかなうちに絆を深めることができました。

ますます難しい課題が山積している教育界にあって、それぞれの立場で力を注ぎつつ、意思疎通を図って前進していく会にしたいと思います。

(43理化) (17.2.1記)

= 富山県支部 = 支部長 滝本恒平

富山県支部総会は、例年理窓会富山支部総会と同時に開催しており、"平成16年7月3日(土)午後2時から公立学校共済組合宿泊所「高志会館」で開催された。

大学本部より、来賓として常任理事の澤芳昭先生、常任幹事の池北雅彦先生に来富していただき総会に花を添えていただいた。

特に、池北先生には例年実施している富山支部会員の資質向上のために開催している講演会の講師としてご講演を賜った。演題は「生命のもつ不

思議さ」であった。この講演会は、できるだけ同窓の会員を講師としてお招きし、その運営費用は教育会富山支部で負担しているもので、教育会富山支部結成以来継承されている。

当日は、新しく理窓会富山支部長に就任された本多宗高支部長の開会のあいさつを皮切りに総会、講演会、懇親会と予定終了時間の午後6時30分があつという間にきて、出席会員は菜年も元気に集まることを祈念し散会した。

当日の次第を掲載し務めを果たしたい。

総会・開会あいさつ・来賓紹介・来賓あいさつ
澤先生より、理科大の概況説明、創立125周年記念事業等についてお話を伺った

・協議事項：この中に、教育会富山支部活動状況、本部の動き等について説明をしました。

・役員の一部改及び 講演会、記念撮影、懇親会（41理数）

= 福井県支部総会 = 支部長 山下秀雄

つい先日新しい年を迎えたと思ったのに、もう弥生三月になろうとしています。しかし雪国福井はまだ毎日のように雪がちらちらと舞っている今日この頃です。

さて、先日理窓会福井支部の平成十七年度総会が大学から塚本理事長並木周年事業局長をお迎えし芦原温泉で開催されました。そのおり参加者の中の小中高の教員が集まり、話し合いをもった上で正式に福井県支部が発足致しました。（今まで正式な話し合いがもたれなかったので、なかなか教育会本部の意向やその他の連絡、及び会費の徴収などがスムーズに実施できませんでした。）

会が発足したとはいっても、福井県は人口が約八十万人しかいないので、理科大学への受験（合格）者や地元で卒業後帰ってくる人が大変少なく、現在わかっている理窓会会員が全県で百三十名ほどという状況です。その中の二十四名が福井県の小中高の各学校や教育行政に関わっている人数となりますので、やはりここは全員に何とか参加してもらわないとと考えています。

まだすべての人に教育会のことをお知らせしていない段階ではありますが、先日の話し合いでの参加者は大変熱心にディスカッションに参加していただいたので、世話係の私としては大変有り難い気持ちでいっぱいになりました。その気持ちを保ち続け福井県における教育会の位置付けや意義をしっかりと皆さんにお伝えし、支部を発展させたいと考えております。

話し合いの中で出た意見の中に、この会（教育会）に入るとどのようなメリットがあるのです

か？との質問がありました。やはり、利点や利益が無いと会には入ってもらえないのかなと思いましたが、懸命に私の考えを述べたところ、何とか納得してもらって全員（七名）の賛同を得ることができました。

という次第で、来年度より数名分の会費を本部に納めることができるようになると思います。

以上、詳しい内容にまでは至れませんでした、支部の報告とさせていただきます。（47理物）

= 京都支部総会 = 支部長 田中理房

支部教育会総会は平成16年度開催せずに、平成16年7月18日に京都駅前の新都ホテルで開催しました理窓会支部総会に会員の出席をお願いしました。当日は、来賓含め出席者23名、内5名の教育関係者の参加でした。5月26日に開催されました支部長会、7月17日に開かれまして近畿支部長会で次期副会長に、現在の奈良支部長森西耕一郎北和女子高校校長を推薦する、などの報告を行いました。

また11月に近畿地区支部長が懇談した際に、年々理科大も隆盛をきわめ学生募集、大学説明会など、その規模が肥大化する状況で、関係する大学関係者のご苦勞も、言葉には言い尽くせないものがあるとの意見がありました。理科大はその昔、家族的な面も見られた大学であったことを思えば、親切に行き届いた進路指導や受験生への対応が行われ、多くの人々から、心寄せられる大学となることを望む意見もありました。

関東や関西の伝統ある大学では、小学校を併設する動きも活発になっています。大学の生き残りをかけ将来の学生確保に懸命になっているとき、理科大も対岸の火事ですまされないものと感じています。

本校は、物理学校・理科大の永年培われた歴史の中に、全国各地には教育・行政を指導的立場で経験された、豊富な人材によって教育界をリードしてきました。今こそ、その財産を組織として、先輩方が地道に培ってこられた各地域の教育基盤を基に、学校・生徒・保護者が安心して進学指導が受けられる、環境を整えるための一助に、教育会として物理学校・理科大ならではの役割が果たせないか、機会あれば会員相互で協議してみたいと願っています。（40理数）

解決案が研究所を通して提出できるのではないかと思っています。

研究所には教育・教材開発研究班（教育方法の研究、カリキュラムの研究、IT教材の開発、高大一貫教材の開発、SPP事業の協力、中学・高校への出前授業の実施、数学教師教育の実施などの活動）と教育データ班（学力診断テストや基礎学力テストの開発、学力の定点観測、高大の情報交換とデータの管理、学生や社会人の意識調査の実施、などの活動）の2つの班があります。

数学教育の研究には、理論的な部分

と実践的な部分の2つの側面があります。この2つの面が互いに結びつくことによりその結果が生かされる研究所の開設は、理論的研究者にとっても実践的研究者にとっても共同研究が可能になる理想的な機関になると期待しています。

この研究所の活動成果は、現場で活躍されています教員の皆様の参加に係っていると考えています。教育会の先方のご協力をお願いいたします。

母校創立 125 周年記念イベント

Conscience
21世紀の「科学」は「良心」へ向かう
125th Anniversary 1881-2006

2006年6月14日は東京理科大学の125回目の創立記念日です。1881年に東京物理学講習所として誕生した東京理科大学は、我が国の科学技術の土台を担い、国際社会に貢献する人材の育成に、これまで一貫して努めて参りました。125周年を迎えるにあたって、本学が歩んできた長い歴史を皆様と共に振り返り、記念すべき年を祝う様々なイベントを企画しています。

2005年6月の「プレ講演会」を皮切りに、記念イベントは始まります。こうよう会(父母会)各支部の協力を得て、各支部のある地域で本学教員による講演会を開催する予定です。

2006年6月には、お台場の日本科学未来館において、「科学技術の情熱拠点」をテーマとするイベントを企画しております。現在行なっている研究の成果を披露する「研究成果フェア」、未来の科学者、子供たちと一緒に実験を行い、「理科嫌いななんて吹き飛ばせ」と科学のワクワクする世界に誘う「サイエンス夢工房」、最先端の科学技術を語る講演会を同時開催する予定です。

神楽坂・野田・久喜の各キャンパス

では、大学の主役、学生によるイベントが開催されます。大学を知り尽くしている学生たちの創意に満ちた、心温まるアイデアが記念イベントを盛り上げます。詳細は後日ホームページ等でお知らせいたします。

さらに、記念誌(DVDで刊行予定)を編纂中です。現在、記念出版委員会では、“教育の物理学学校”の伝統を引き継ぎ、学生をひきつける授業に情熱を傾ける“名物教員”を探しています。また毛筆書きの実験ノート、懐かしい写真等の資料のご提供もお待ちしております。是非、情報をお寄せください。

125周年記念イベントは参加型のイベントです。同窓の皆様はもちろん、未来の同窓生、中高生にも、本学と科学の素晴らしさを感じていただき、心に残る記念日にできたらと願っております。

周年記念事業事務局

〒162-8601 東京都新宿区神楽坂1-3

TEL: 03-5228-8740 (ダイヤルイン)

FAX: 03-3260-4363

e-mail: 125shunen@admin.tus.ac.jp

URL: <http://www.tus.ac.jp/125/>

特別寄稿

ものづくり教育への取り組み

東京都立町田工業高校長 瀧上文雄

「科学技術立国日本」がさければ、ものづくり基本法が成立し、今後の日本も科学技術の発展が望まれています。しかしながら、産業の国際化のものと汎用の製造技術が国外に持ち出され、中国や東南アジアから安価な工業製品が輸入され、日本の人件費の高いこともあって企業や技術がそれらの国に流出しています。また、団塊の世代といわれる世代が、今後、定年をむかえることから、人的な面においても技術の保有に困難が予想されます。科学技術立国は、広い産業基盤があり、技能や技術を持った幅の広い人材に支えられていることは論を待ちません。技能、技術面からこれを支えてきたのが工業高校生です。

このような状況の中で、全国工業高等学校長協会では、これからも日本の産業技術を支える技能者、技術者を育成し、日本の将来を支えたいという観点から、二つの施策を行うことといたしました。

一つは、「全国高校生ものづくり競技会」です。文部科学省後援の産業教育フェアにおいて、旋盤部門、電気工事士部門、電子回路部門、化学分析部門、自動車整備部門、橋梁模型作成部門、木材加工部門で全国各ブロックから選出された高校生達が競技するものです。技術的には大変高いレベルにあり、旋盤部門においては、熟練技能者に匹敵する精度で加工が行われ、その技術の高さに圧倒されるようです。競技会に参加する生徒は、地元の企業の熟練技能者から相当、長時間にわたって技術指導を受けた者も少なくありません。企業と工業高校との連携を示すもので、今後の技術教育の方向性を示していると考えています。

二つめは、「ジュニアマイスター顕彰制度」です。工業高校生が取得する国家資格や検定、工業系各種競技会等を点数化し、ある点数以上になったとき全国工業高等学校長会・理事長より

表彰するもので、「ジュニアマイスター」という称号を贈ります。ジュニアマイスターは、工業高等学校長会によって商標登録が行われております。電気工事士二種が7点、シスアドが12点という点数で100程の資格と50程度の競技会等に点数を付け、30点以上になるとジュニアマイスターシルバー、45点以上でジュニアマイスターゴールドが付与されます。16年度は全国で5000名程の高校生が認定され、この制度により、国家資格や検定試験にチャレンジする生徒が確実に増加しました。高校生の技術・技能の定着に寄与しているものと考えています。

さらに、東京都立工業高校・校長会では、工業高校改革案の策定を行いました。平成16年10月14日に改革の3つの先導校が東京都教育委員会から指定され、中でも蔵前工業高校が大学との連携を目指す学校となりました。東京理科大学とも連携して、今後、ものづくり教育を推進することにもなっています。

工業高校には様々な教育課題があり、益々、地域社会、小学校、中学校、大学、企業との連携を深め多様な教育を展開する時代にもなっていると思います。同窓の皆様方のお知恵を拝借したいと存じますので科学立国日本を支える工業高校へのご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。(50 理工修工化)

事務局について(お願い)

教育会総務理事(24理数) 笹沼亀治
会報21号、23号でもお知らせいたしました。教育会が理窓会の関連組織に位置づけられたのを期に、教育会事務局を左記の理窓会事務室に同居させていただいております。しかし、事務担当者、教育会専用の電話、FAXは経理上置けない状況です。

会員のみなさまには甚だご不便をおかけいたしますが、当面、郵送による書面でのご連絡をお願いいたします。

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂

2-13-1

理窓会館四階教育会事務局宛

会費納入のお願い

教育会総務理事（24理数）**笹沼亀治**
 16年度の教育会年会費（1,000円）がまだ未納の方は、同封の振り込み用紙でお払いくださるようお願いいたします。支部一括納入の際は、支部の方法で支部長に納入ください。

なお、納入済みの場合は次年度用か、入会をお勧めされる時などにご利用くださいますようお願いいたします。

教育会ホームページ開設（再報）

（36理物）伊藤 操

（41理物）小原政敏

昨年7月21日に、理窓会のホームページに関連づけて作りました。ホームページアドレスは次の通りです。

<http://www.hq.sut.ac.jp/~risokai/>

検索で「東京理科大学同窓会」を入力して、トップページを開き、「関連団体ホームページ」をクリックし、さらに「教育会」をクリックしても開きません。

・研修会のお知らせ

・会報記事

・大学・理窓会などとの連携記事

などを載せ、みなさまと情報交換を図る一助にしたいと考えています。是非、ご意見、ご要望、ご提案などをいただきたいと存じます。

編集後記

編集委員長（50 理工修工化） **瀧上文雄**

理科大と教育会が益々、大いに連携して行くことが、記事の中にあふれています。教育会に携わる同窓生として、大変喜ばしく思っています。会誌を編集していても、各地区が活性化して、教育会全体が新しい動きを始めたように思えました。

さて、25号からスタイルを変更し横書きにしてみました。なれないことで読みづらい点もあろうかと思いますがご容赦頂ければ幸いです。

平成17年度教員採用試験合格者数

中学・高校共通科目については中学校でカウントしました。平成17年2月25日現在

校種 教科	公立中学		公立高校				公立計	私立中学・高校				私立計	公私計
	数学	理科	数学	物理	化学	情報		数学	物理	化学	生物		
茨城	2		2				4						4
栃木	1						1						1
群馬			1				1						1
埼玉	3						3	4			1	5	8
千葉	3	2					5						5
東京	22	1				2	25	6	1	1		8	33
神奈川	2		1				3	1				1	4
川崎市	4						4						4
横浜市	1						1						1
山梨								1				1	1
富山	1						1						1
新潟	1						1		1			1	2
静岡			1				1						1
愛知	1		1				2	2				2	4
名古屋市			1				1						1
大阪	1						1						1
高知								1				1	1
合計	42	3	7			2	54	15	2	1	1	19	73
16年度	37	2他1	14	4	1	他3	62	15	1	2	他1	20	82
15年度	27	6	4		1	他1	39	11	3	1	1	16	55
14年度	15	2	6	3	4	他1	31	8			他1	9	40
13年度	10	3	6	1			20	5		2	他1	8	28